

令和8年度 東京都立桜修館中等教育学校 学校経営計画

校長 信岡 新吾

1 目指す学校像

(1) スクール・ミッション

「6年間の一貫した教育活動の中で、世界の中の日本人としてのアイデンティティをもって国際社会を担う人材を育成する学校」を目指し、研究論文の作成、6年間の系統的な進路指導、国際交流事業といった教育活動を通じて、真理の探究を極め、困難な課題に主体的に取り組み、粘り強く解決できる生徒を育成する。

(2) スクール・ポリシー

① アドミッション・ポリシー

(ア) 将来の夢や高い志を抱き、自ら進んで考え、自ら勇気をもって決断し、自ら責任をもって主体的に行動する力を育もうとする生徒を募集する。

(イ) 社会の様々な場面・分野においてリーダーとして活躍する力を育もうとする生徒を募集する。

(ウ) 真理を探究する精神をもち、自ら課題を発見し、論理的に解決し、適切に表現し行動できる力を育もうとする生徒を募集する。

(エ) 生命や人権を尊重し、他者を思いやり、他者と共に協調する心を養おうとする生徒を募集する。

(オ) 世界の中の日本人としてのアイデンティティをもって国際社会に貢献する力を育もうとする生徒を募集する。

(カ) 自らの健康に留意し、体力の向上に努め、健全な精神を維持できる力を育もうとする生徒を募集する。

② カリキュラム・ポリシー

(ア) 中等教育学校の特色を生かした6年間の一貫した教育を通して、幅広い教養と発展的内容の学習を実践し、高い学力の定着を図る。

(イ) 前期課程で「国語で学ぶ論理」、「数学で学ぶ論理」を学習し、後期課程では5000字の研究論文を完成させることを通して、論理的に物事を思考する力を育成。

(ウ) 6年間を通して、海外語学研修、海外修学旅行、海外大学リーダー育成アメリカ研修などの国際理解教育に取り組み、国際社会を担う人材を育成する。

③ グラデュエーション・ポリシー

(ア) 高い知性：確かな学力を身に付け、論理的に考えて課題を解決する力や自主的な表現力を身に付ける。

(イ) 広い視野：生命を大切にし、他者を思いやる心や人権を尊重する態度と国際社会に貢献しようとする態度を身に付ける。

(ウ) 強い意志：困難な課題に対して、勇敢に立ち向かって根気よく解決する精神力と体力を有し、責任をもって行動する姿勢を身に付ける。

2 中期的目標とその達成に向けた方策

(1) 教養主義に基づく教科指導を通して、生徒に広く教養を身に付けるとともに、基礎学力の定着と応用力の充実を図る。教育活動全体改善を図り、6年間を見通して各学年で身に付ける学力を明確にし、教科全体で生徒の学力向上に取り組む。

そのために、校内研修や教科内の研修を計画的に行い、教職員の衆知を結集して、カリキュラム・マネジメントを実現する。

(2) 「真理の探究」を極めることの実現に向けて、主体的に学ぶ力や論理的思考・表現力の育成を図る。

そのため、前期課程に開設する、その他特に必要な教科「国語で論理を学ぶ」、「数学で論理を学ぶ」を基礎に、5年生での研究論文作成に向けた体系的な学びを実現する。また、学習指導要領に基づいた生徒の資質・能力の育成に向けて、ICTの活用

- や、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- (3) 6年間を見通した進路指導計画を策定し、発達段階に応じた進路指導を行う。資料・情報の収集と整理に努め、有効に活用して、生徒の進路実現に資する。
 - (4) 日本人としてのアイデンティティをもって、他国の文化を尊重し、国際社会に貢献できるグローバル人材を育成するため、我が国の伝統・文化の理解や国際理解教育を充実させる。特に、学校交流の受け入れや海外での体験的活動を充実させる。
 - (5) 健全な勤労観・職業観を育成し、自己の進路を主体的に決定できる能力を育成するためのキャリア教育を実施する。生徒の好奇心や専門的な知識を深めるため、大学等との連携を図り、自身の進路について高い志をもって取り組むよう指導する。
 - (6) 基本的な生活習慣を確立する指導を充実させるとともに、規範意識・道徳心を育て、生徒の自主・自律の精神や積極的で前向きな生活態度を養う。
 - (7) 学校行事や自治会活動、部活動などに主体的に取り組み、仲間と協働する中で社会性、リーダーシップ、協調性などを育成する。

3 今年度における取組目標とその達成に向けた具体的方策

(1) 学校経営・広報活動等

<学校経営>

- ① 組織体制の見直し・改善と所掌事務の整理を行い、属人的な経営から組織的な学校運営への改善を図る。
- ② これまでの指導計画・内容の見直しを行い、探究学習を中心に6年間の体系的な指導計画・内容を構築・実践する。
- ③ 情報の共有と連絡調整、文書主義に基づく運営を徹底し、分掌組織の機能を強化するとともに学校として統一感のある教育活動を展開する。
- ④ 教育課題検討プロジェクトチーム（昨年度からの継続）による課題の整理・改善策の立案を進め、全教職員の共通理解・協力体制の下、課題解決を推進する。
- ⑤ 会議・打合せ等は、勤務時間内に時間を限定（上限1時間程度）して計画的に行うとともに、ICT機器なども活用して効率的に実施する。また、SDGsの観点からペーパーレスを継続して推進する。

<広報活動>

- ① 都立中学校等合同相談会等への参加をはじめ、本校独自の学校紹介日、部活動見学会、適性問題等解説会、教育関係者対象説明会等を実施する。また、記念祭での学校紹介ブースの設置や、学習塾等外部機関が主催する説明会に積極的に参加。
- ② 6月と11月に授業公開週間を設定し、本校在籍の保護者のみではなく、広く都民に公開し、本校の教育活動を理解してもらう機会として積極的に活用する。
- ③ 目黒区を中心に地域の小中学校への情報提供を積極的う。
- ④ 本校のホームページを掲載手続き明確にするとともに簡素化し、リアルタイムでの更新に努め、生徒の様子や求められる情報などをタイムリーに発信する。

<その他>

- ① 生徒の男女比の変化に対応できる施設整備を計画的に検討していく。さらに、施設管理面での防犯・安全対策を徹底する。
- ② 目黒区及び区立学校等との連携を図り地域に開かれた学校を推進する。また、八雲住区エリアの防災上の拠点として、地域と連携した防災教育、学校施設開放事業を推進し、地域から信頼される学校づくりを行う。

(2) 教科指導及び生活指導等に関する取組目標

<教科指導等>

- ① 基礎・基本の着実な定着を基盤に、学習した内容をもとに課題を見出し、課題解決に至る生徒の主体的な学びを重視し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改善を推進する。教科会等を中心に生徒の学力向上と教員の授業力向上の方策を協議し、年間授業計画に反映させるカリキュラム・マネジメントを機能させる。また、教員のICT活用能力やデータ活用能力を高め、ICTや新しい教育機器を活用した一層学習効果の高い授業を行えるよう、教師自身の主体的な研鑽を促進する。

- ② その他特に必要な教科「国語で論理を学ぶ」、「数学で論理を学ぶ」の授業をティームティーチングで行い、論理的な思考力・表現力を育成する。また、各教科等で討論型、発表型といったアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。また、授業の中で積極的に論理的な文章を書かせるなどに主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、論理的に考え表現する姿勢、探究心や創造力を育成する。
- ③ 前期課程に設置する「国語で論理を学ぶ」、「数学で論理を学ぶ」を基礎に、5年生の「研究論文作成」では教員全体で生徒を受けもち、構想段階からまとめの段階まで生徒が探究的な学びを行えるよう体系的・継続的に指導する。その際、データ収集・分析や論証方法等の教員の指導力を高め、生徒の指導に還元する。
- ④ 朝学習、放課後の自習及び長期休業中等の講習・補習を行うことで、学習習慣を定着させ、基礎学力を確実に高めるとともに、自学自習の態度を育成する。また、チューター制度を活用して、生徒の自学自習を支援する。
- ⑤ 基礎・基本の定着を重視するとともに、生徒の理解に応じた宿題や課題を工夫して個に応じた指導を行う。また生徒の過度な負担にならないよう教科間で調整を行うとともに、予習・復習の取り組み方を具体的に指導し、家庭学習を必要と知る授業展開を行うなど、家庭学習に前向きに取り組めるよう工夫する。

<生活指導・特別活動等>

- ① 挨拶の励行、遅刻の防止、制服の適正な着用、通学時のマナー（自転車の乗り方やヘルメットの着用を含む）、貴重品の管理など基本的な生活習慣の確立に向けて、教育活動全般を通して学校が一体となって組織的に取り組む。
- ② 学級活動・ホームルーム活動、全校集会・学年集会などを活用し、規則正しい生活や安全な通学の仕方、適切なマナーを身に付ける指導を行う。
- ③ 生徒の自治活動を指導・支援し、自治会（生徒会）活動や三重大行事の幹部（実行委員会）の活動等を主体的に行うように指導する。これらにより生徒に達成感と成就感をもたせ、自主性自律性を育て、リーダーとしての資質を養う。
- ④ 学校行事や宿泊行事、自治活動、地域の取組みなどを通して、教員と生徒及び生徒間の人間的なふれあいや地域社会との交流を積極的に推進して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。
- ⑤ 前期課程では、学級活動や自治会活動などの特別活動や部活動を通して、生徒の自主性を育成する。また、行事における役割分担の意義を理解させ、集団生活上のルール・マナーを体得させる。後期課程では、主体的な企画・運営ができるようにホームルーム活動、自治会活動や記念祭、クラスマッチ、合唱コンクールなどの学校行事や部活動に積極的に参画することで、リーダーシップを育てる。
- ⑥ 部活動は週2日以上以上の休養日を設け、生徒の主体的な活動と家庭学習時間を確保できるようにする。部活動を通して自己管理能力を養い達成感と成就感を得るとともに協調性を育むよう、部活動支援員と連携しながら全教員が協力して指導する。
- ⑦ 規範意識を高め、将来のリーダーとしてふさわしい自覚と態度を育む。また、道徳教育を充実させ、自他の生命を尊重する態度と、社会的規範意識を醸成する。特にスマートフォン、SNSを使用する際の注意等情報モラルの徹底を図る。

<進路指導>

- ① 生徒が高い志をもって難関国立大学をはじめ、国公立大学・難関私立大学や海外大学への進学を目指してチャレンジするよう、組織的な進路指導を展開する。
- ② 前期課程では、社会で働く人々と職業に対する理解を深め、自己とのかかわりについて主体的に考える姿勢を養う。また、職場体験を実施し、働くことの意義や社会に貢献する意識を養い、健全な勤労観・職業観の育成を図る。後期課程では前期課程で学んだことを踏まえ、職業研究や大学研究、オープンキャンパスへの参加、「学フォーラム」等を通して、卒業後の進路希望を明確にし、将来の在り方生き方を見据えながら、高い志と目的意識をもって日々の学習に取り組むよう指導する。
- ③ 『進路の手引き』や進路通信『道はり』を発行して、進路情報を提供するとともに大学の教員や学生による講話などを開催して進路に対する意識を高める。また、校内実力テストや外部の模擬試験などのデータをより効果的に活用できるように

し

て、生徒の進路意識を啓発しながら学力の向上を図る。

- ④ 大学や研究機関等との連携を通して、生徒の学問に対する興味・関心を高め、教科の内容とのつながりについての理解を深め、学習の動機付けを図る。
- ⑥ 長期休業期間等の講習を組織的に行い、進路実現に必要な学力の向上を図る。
生徒には自身の学力状況を把握して対策を立てるよう指導し、教員は入試問題を分析し、積極的に大学受験を視野に入れた講座を開講する。
- ⑥ 海外の大学への進学希望者に対して、海外大学進学説明会を開催し、必要な情報を提供して生徒の高い志が実現するよう支援を行う。

<その他>

- ① 全国レベルのコンクールや大会等に積極的な挑戦を促すとともに、資格・検定への受験指導などを行い、生徒に達成感や成就感をもたせる。また、6年間を通した主体的な活動の記録を自己管理できるよう指導する。
 - ② サイエンスセミナーや実験講座を開講するとともに科学の祭典など外部のコンテストに積極的に参加し、理数に興味・関心をもつ生徒の育成を図る。
 - ③ 本校の学校図書館を活用しながら、あらゆる教育活動を通じて読書指導を行い、生徒が読書習慣を身に付けるよう指導する。
 - ④ 成年年齢の引き下げに伴い、公民や地理・歴史及び社会の授業をはじめ、様々な教育活動を通して、社会の構成員として主体的な社会参画に必要な力を育む。また、契約に関する基本的な考え方や責任について理解するとともに、主体的に判断し、責任をもって行動できる能力を育むように指導する。
 - ⑤ 地域と連携した防災訓練を中心に、防災に対する意識を高め、奉仕活動などに積極的に関わる意識・態度を育成する。
- (3) 服務事故の根絶、いじめの未然防止・早期発見・早期対応、不登校・中途退学の未然防止や早期支援等に関する取組目標
- ① 全教職員を対象とした服務事故防止に関する校内研修を計画的に実施するとともに人事考課に伴う面接等で個別に指導する。
 - ② 個人情報取り扱い基準を厳守し、特に、生徒等の個人情報の管理には万全を期すとともに、教職員の服務規律の厳守を徹底し、事故を起こさない体制を構築し、維持・向上させることで、生徒・保護者及び都民の信頼を得るように努める。研修やクリーンデスク週間を定期的実施する。
 - ③ 都教委作成の資料を活用・確認して教職員の意識を高めるとともに、いじめの可能性のある第一報が入った時点でいじめ対策本部を立ち上げ、教職員で情報を共有・協力して、初期段階から組織的に対応する。
 - ④ 校内規定等を柔軟に運用するとともに校内別室指導推進事業を活用し、個々の生徒の状況に応じて不登校・中途退学の未然防止や早期支援に組織的に取り組む。
- (4) いじめに関する授業や研修の実施に係る取組目標
- ① 前期課程における道徳や後期課程におけるホームルーム等を中心に計画的に道徳に関する授業を行う。
 - ② 道徳地区公開講座も活用して、授業実践に関する研修を全教員対象に実施する。
- (5) 自殺対策基本法の改正を踏まえた、S O S の出し方に関する教育の実施や相談策の周知等に関する取組目標
- ① 全学年で実施する個人面談やスクールカウンセラーによる面談、学級・ホームルーム活動等の機会を活用して個別・全体に指導する。
 - ② 年度初めや学期はじめ、長期休業前の全校集会、保護者会等の機会に公的機関や校内担当者も含め生徒・保護者に情報提供を計画的及び随時行っていく。
- (6) グローバル人材育成に関する取組目標
- ① GE-NET EE 指定校として、ICTを活用した学習ソフトの導入を進めるとともに、オンライン英会話や外部検定試験を通して、4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく学びつつ、国際理解教育との連携を図る。そのために必要な指導方法等について英語科で校内研修を実施する。
 - ② グローバルスタープログラム（希望者）、オーストラリア海外語学研修（希望者）、海外大学リーダー育成アメリカ研修（希望者）、台湾海外修学旅行を実施

するとともに、海外からの訪問を積極的に受け入れるなど、国際交流を展開し、体験的な国際理解教育を推進することで、コミュニケーション力を高め、異文化を理解し国際社会に貢献できる能力や態度を養う。

- ③ 多様性を認め合い尊重し合う態度や行動力を養う指導の充実を図り、共生社会の実現に寄与する人材を育成する。

(7) 生徒の体力向上及び健康の保持増進に関する取組目標

- ① 体力向上に向けた取組を、体育の授業、マラソン大会などの体育的行事、運動部活動をはじめとして、さまざまな教育活動を通して体力と精神力を鍛え、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育成するとともに、体力・運動能力の向上を図る。
- ② 生徒の健全な成長に資するため、定期健康診断その他の保健啓発活動を行い、家庭と連携して生徒の健康管理に努め、教育活動を側面から支える。
- ③ 家庭とも連携して、前期課程での給食指導、後期課程での弁当販売等を通して環境を整え、食への関心を高める。また、家庭科の学習や保護者会での情報発信などを通して食育に対する意識を高める。

(8) 特別支援教育の推進についての取組目標

- ① 特別支援教育コーディネーターを中心に校内体制を整備するとともに、関係諸機関と連携し、特別な配慮を要する生徒に対して、適切な教育的支援を行う。また、後期課程における「通級による指導」の実施体制を整備する。
- ② 昨年度から取り組んだ生徒相談部会、生徒情報交換会の定例化を図る。

(9) 働き方改革に関する取組目標及び教職員のライフ・ワーク・バランスの推進に関する取組目標

- ① 組織体制と役割分担の見直し、所掌事務の整理、業務計画の作成等により、属人的な校務運営から組織的な運営への転換を図るとともに、今年度から配置されたスクールサポートスタッフ等外部人材の活用を進め、業務の効率化を図る。
- ② 職員提案制度を継続し、業務の見直しと効率化・平準化を促進し、職員の超過勤務時間縮減とライフワーク・バランスの実現を図る。
- ③ 男性職員の育児休業等取得を積極的に支援する。
- ④ 時差勤務や在宅勤務等を積極的に活用し、働きやすい職場お環境づくりを進める。

(10) デジタル技術を活用した教育の推進に関する取組目標

- ① WiFi 設備を利用した BYOD や、前期生徒へ貸与された GIGA 端末と後期課程の一人1台端末を活用し、デジタル技術を活用した新たな授業づくりを実践する。
- ② デジタルテスト研究校としての実践に組織的に取り組み、教育の情報化を推進。

(11) 「東京都特別支援教育推進計画(第二期)第三次実施計画」に基づく取組や目標

- ① 自立支援担当統括学校経営支援主事、CSVの指導の下、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、特別支援教室専門員等と連携して、特別支援教室(前期課程)と通級(後期課程)の校内体制を構築する。
- ② 特別支援教育コーディネーター2名(前期課程と後期課程それぞれ1名)の配置の工夫を中心に教職員の特別支援教育についての専門性の向上を図る。

4 今年度の重点目標と方策および数値目標

- (1) 【16期生の進路実現】今年度卒業する16期生の進路実現を図るため、当該学年担任、進路指導部はもとより、学校全体で組織的に総力を挙げて取り組む。

<方策>・進路指導室を積極的に活用し、生徒への情報提供や進路相談に応える。

- ・進路資料を充実させ、生徒に適確な情報を提供。
- ・自習室を活用しやすく工夫し、時間を確保。
- ・各教科においても、生徒の主体的な学習を積極的に支援。
- ・チューターを更に活用できるように改善し、自学自習を支援。
- ・志望校検討会を年2回開催し、生徒一人一人についてきめ細かく指導。

<数値目標> 難関国立大 25名 難関私立大 170名
国公立大 70名 G M A R C H 180名

- (2) 【中間期の学習対策】中だるみ防止に向けた教科指導、教育活動の在り方を検討。

- <方策> 3学年では、定期考査と外部模試の結果を用いて1月に各生徒の学力の状況を分析・検討し、個別に指導を行い後期課程に円滑に接続させ、4学年では、外部模試等を利用して到達目標を設定し意欲を喚起する。
- <数値目標> 3年生：学力推移調査におけるB3ゾーン以下の生徒0
4年生：CEFR A2以上到達 95%以上
5年生：CEFR B1以上到達 85%以上
- (3) 【家庭学習】家庭学習を効果的に実施して、生徒の学力伸張を図る。
- <方策> ・宿題や課題を出す際に作業学習的なものも取り入れるなど工夫する。
・宿題や課題を出題する際には、学年が各教科と量的な調整を行う。
・予習・復習のやり方を具体的に指導し、家庭学習が必要な授業展開を行う。
- <数値目標> 前期課程：毎日2時間以上（週休日、祝祭日も含め平均して）
後期課程：毎日3時間以上（週休日、祝祭日も含め平均して）
- (4) 【長期休業中の補習・講習】長期休業中に補習・講習に参加して特定科目を集中して学び、不得意科目の克服等に活用する。
- <方策> ・個々の生徒の学力状況を適確に把握し苦手科目を克服するよう指導。
・前期課程では、フォローアップを目的とした講座を中心に実施。
・後期課程では、入試問題を分析し、大学受験を視野に入れた講座を開講。
- <数値目標> 夏期休業 前期課程 担当教員が長期休業中に1回以上実施
後期課程 70講座以上 延べ 1500名以上参加
放課後等の講習・補講 延べ10講座実施
- (5) 【読書指導】日常の広範囲にわたる読書を促し、読書習慣を身に付けさせる。
- <方策> ・生徒の知的好奇心を高めるよう、本校の図書館その他を有効に活用する。
・8月に読書月間を設定するなど、適宜、読書指導や啓発活動を行う。
- <数値目標> 図書館における生徒一人あたりの平均貸出件数 年間18冊以上
- (6) 【授業改善】生徒の学力向上を図るため、常に授業改善に努める。
- <方策> ・専門研修や予備校主催の研修、他校への指名研修受講等を推進。
・月1回程度の教科会等で、生徒の学力向上策や授業改善について教科内で検討して年間授業計画に落とし込み、次年度の改善につなげる。
・全教員がICT機器等を活用した授業を実践する。
- <数値目標> 学校評価アンケートで、授業満足度 平均90%以上
- (7) 【部活動】学年を越えて共に活動することで、連帯感を育み豊かな人間性を育成。
- <方策> ・切り替えを上手に行い、メリハリを付けて時間を有効に使わせる。
・部活動で身に付けた集中力を駆使して、学習を効率よく進める。
- <数値目標> 部活動加入率 前期課程95%程度 後期課程85%程度
休養日の設定 前期課程後期課程ともに週2日以上
- (8) 【広報活動・地域交流】生徒募集、広報活動、地域交流を積極的に推進する。
- <方策> ・ホームページの更新手続きを明確にして、適時に情報を提供する。
・地域のイベント等に生徒が参加する機会を増やす。
・学校説明会への生徒参加など、本校の良さを小学生や保護者に伝える。
- <数値目標> 応募倍率：4.2倍以上
- (8) 【ライフワーク・バランス】学校における働き方改革推進プランに基づき、業務の効率化を図り、教育活動の質の向上と教職員の勤務時間の短縮を推進する。
- <方策> 定時退庁日と学校閉庁日の設定、計画的な仕事の進め方による業務の効率化により、教職員の業務時間の短縮とライフワーク・バランスの実現を図る。
- <数値目標> ・年休取得平均15日以上
・超過勤務月45時間以上の職員延べ2000人以下